

【鹿児島県納税貯蓄組合連合会会長賞】

税金はリレー

出水市立米ノ津中学校

三年 湯元 穂ノ香

エアコンのきいた教室。当たり前のように用意された机と椅子、そして教科書。「学生の本分は勉強」と整えられた環境で、私たち子どもが学習に取り組むことができるのは、税金に支えられているからだと思います。

毎年、新年度になると教科書が配られます。教科書の裏には、「この教科書は、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と書かれており、小学校の頃から先生方に「大切に使うてください。」と言われてきました。三年生になり、税についての学習をする現在、毎年聞くこの言葉が、「無償」ということが、どんなにありがたいことか身に染みて感じ、税についても少し知ってみたいと思い調べてみました。

調べていく中で、「一年間で一人あたりの子どもに使われる税金は、小学生で約八十五万円、中学生で約九十八万円」という事実を知り、驚きを隠せませんでした。小・中学校九年度で、合わせて八百万円以上かかっているということになります。私たちが質の高い教育を誰もが平等に受けることができるのは、大人の人が納めてくれている税金のおかげだと改めて思います。

私たちも成人して働き出したら、税金を納めるときがやってきます。そう思うと、税金はリレーのようなものだと思います。現在、税金を納めて社会を支えている大人の人も、子どもの頃は税金に支えられて勉強をしていた。そして、現在、税金に支えられて勉強をしている私たちも、将来は子どもたちのために税金を納めなければならない。大人が子どもを、その子どもが大人になり、また子どもを、税金という仕組みはまさにリレーです。

しかし、税金はリレーだからその課題があります。少子高齢化です。税金は子どもだけでなく、もちろん大人も高齢者も支えています。六十五歳以上の高齢者が人口に占める割合は、二〇〇〇年は一七・四%だったのに対し、二〇五〇年は三七・七%になると見込まれているそうです。一方で、子どもの出生率は急激に下がっています。そのため、私たちは未来の日本を守るために、一人一人が税金の仕組みについて理解し、考えていくことが大切になります。なぜ税金が必要なのか、どのように使われているのか、未来の日本はどうなるのか。納税を国民の義務としてだけで考えるのではなく、その先まで見つめられる人が増えるといいです。